

北海道

北海道小樽高等支援学校

- 建築主 / 北海道
- 所在地 / 〒047-0261 北海道小樽市銭函1丁目10番1号
- 敷地面積 / 54,917㎡
- 建築面積 / 7,976㎡
- 延床面積 / 12,739㎡
- 構造・規模 / 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上3階建
- 施工期間 / 平成21年12月～平成23年3月

知的障害

学部	生徒数	クラス数
高等部	141	19

※平成23年4月現在

計画に見られる指針改訂のポイント

- 企業等との連携による職業教育の充実等に資する空間の整備
- 環境面への配慮
- 一人一人の教育的ニーズへの対応

生徒の社会自立のため、
地域住民との交流を意識した校舎

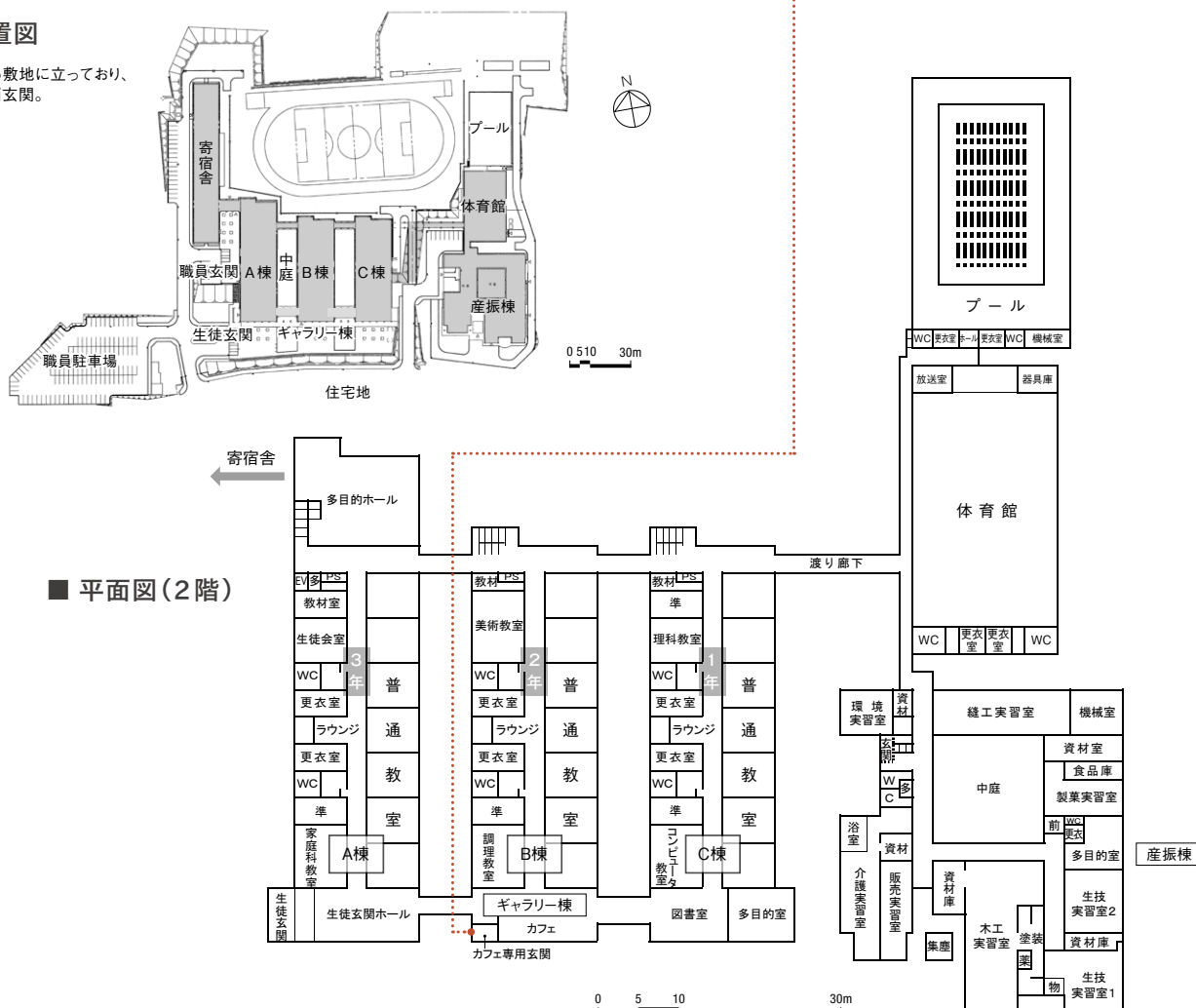
職業的な自立を果たし、社会参加していくために必要な基礎的・基本的な能力を高め、実践的な力を育てる教育を実施している。職業教育の実習で使用するカフェは住宅地に面したギャラリー棟に設置し、地域住民が利用しやすいよう配慮している。



カフェ専用玄関とウッドデッキを備え、地域住民の訪問を促している

■ 配置図

段差のある敷地に立っており、2階が正面玄関。



企業等との連携による職業教育の充実等に資する空間の整備

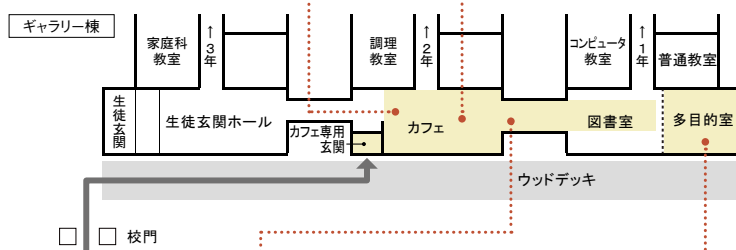
▶▶ 地域住民との交流を通じた職業教育を実現する環境



① 店舗さながらのカフェには専用玄関があり、地域住民が自由に訪れることができる。



② カフェでは生徒が接客の実習を行うことができる。



③ 外部の人が訪れるギャラリー棟に展示スペースを設け、生徒の作った製品をより多くの人に見てもらっている。



④ 多目的室はマイク等の音響設備や可動間仕切りを備え、会議室として使えるようにして地域住民との交流などにも活用している。

視覚障害に対応した施設

聴覚障害に対応した施設

知的障害に対応した施設

肢体不自由に対応した施設

病弱に対応した施設

施設全体の特徴

小樽高等支援学校は、職業学科を有する高等部単独の知的障害のある生徒を対象とした特別支援学校である。軽度の知的障害のある生徒を対象とする学科(木工科、環境・流通サポート科、福祉サービス科)と、知的障害が比較的重い生徒を対象とする学科(生活技術科、生活家庭科)を設置している。学校施設には、生徒の障害への配慮とともに、

多様な職業教育を実施できる環境を整備している。「地域の方々に生徒が『暮らしていく力』を持っているということを示す」という方針の下、学校開放を積極的に行い、地域住民を学校へと誘う様々な仕掛けを施している。

地域に開かれた学校づくり

住宅地に面した「ギャラリー棟」は、外部から直接出入りが可能なカフェ専用

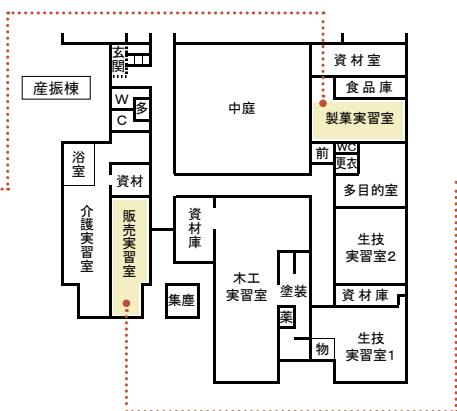
の玄関を設けるなど、地域との交流を意識した造りになっている。カフェでは、生徒が接客の実習を行う(①、②)。カフェに隣接する展示スペースには、主に生活技術科、生活家庭科の生徒が作った製品を展示しており、訪れた人の目を楽しませるだけでなく、新たな製品製作の依頼を生むきっかけにもなっている(③)。多目的室は、マイク等の音響設備や可動間仕切りを備え、地域住民との交流などにも活用しており、カフェが

企業等との連携による職業教育の充実等に資する空間の整備

▶▶ 就労を意識した職業教育の環境



⑤ 就業を意識し、就業実習施設の機器は全て業務仕様としている。殺菌室等も設け、衛生面についても厳しく管理している。



⑥ 販売実習室は、知識の習得と調理などの演習をバランスよく実施できるよう、座学スペースと実習スペースを設けている。

環境面への配慮

▶▶ 「産消協働」の精神が生きる、校舎と教育活動



⑦ 校舎内部に使われている木材は道内産である。



⑧ 昇降口前の電子ボードは、太陽光パネルの発電量を示すほか、太陽光発電に関する解説も表示している。



⑨ 敷地いっぱいに天然の芝生を張り、緑化を図っている。

オープンしている時には生徒が利用者にコーヒーの出前も行うなど、生徒が地域住民と触れ合える空間となっている(④)。

「産振棟」には、サービス業について学ぶための施設(販売実習室等)、介護について学ぶ施設(介護実習室等)、流通管理を学ぶ施設(流通実習室等)などを設けている。また、学校全体をビルクリーニング等について学ぶ施設(清掃・環境整備の実習のための空間)と位置づけている。

従来の「ものづくり」についても見直しを行い、木工室や製菓実習室などは業務用の機材を取り入れて、就労環境を意識した教育活動が行えるよう配慮している(⑤)。

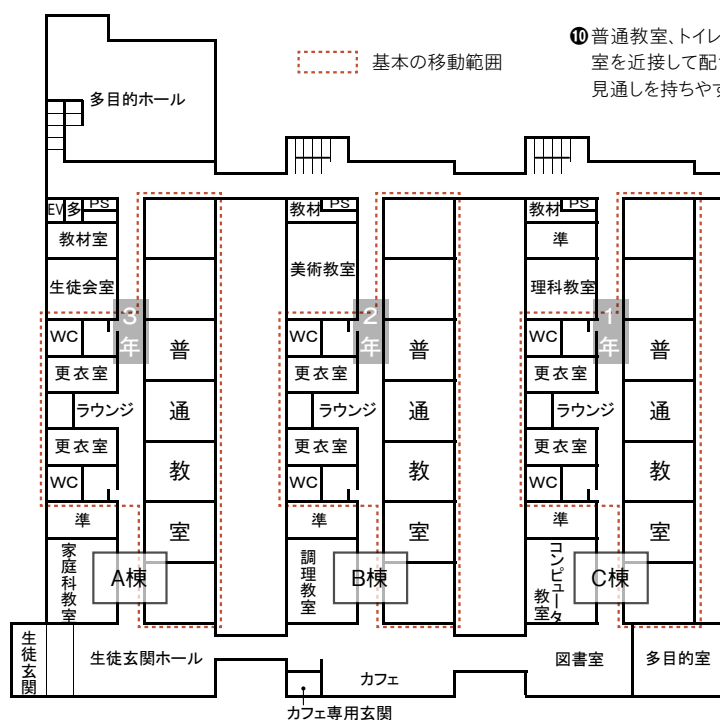
販売実習室は、一つの部屋に座学スペースと実習スペース双方を設置しており、学習したことを実習スペースで演習し、終了時にはまた座学スペースに戻ってまとめと反省を行うなど、生徒の理解を深めるのに適した構成になっている(⑥)。

環境への気遣い

海・山・緑に囲まれた小樽高等支援学校は、環境に配慮した施設となっている。地域資源を活用して地域経済の活性化を目指す「産消協働」の観点から、校舎内部の木材や外壁のレンガは道産材を使用しており(⑦)、職業実習の一環として生徒が作るお菓子や製品についても、道内産の素材が使用されている。寄宿舎

一人一人の教育的ニーズへの対応

▶▶ 活動領域を明確にした教室配置



⑪ 交流を求める生徒が集うことができるようラウンジが設置されている。

の屋上には太陽光パネルを設置するとともに、生徒玄関前に発電の状況を表示する電子ボードを設置して、生徒の環境への関心を高めている(⑧)。敷地には、天然の芝生を張り、緑化を図っている。生徒が球技などを楽しむ場にもなっている(⑨)。

障害に配慮した教室配置

自閉的傾向のある生徒への配慮として、各学年の棟ごとに普通教室、トイレ、ラウンジ、更衣室などの必要な諸室を近接して配置し、“1年生はここからここまでが基本的移動範囲”というように生徒の活動領域を明確にしている。環境の変化を少なくすることで生徒が見通しを持ちやすくなり、落ち着きを持っ

て行動することができるよう配慮している(⑩)。各学年の棟ごとに設置されたラウンジにはベンチを設置しており、休み時間や下校時間に生徒が集い、交流するのに適した空間となっている(⑪)。

学校から

新校舎がオープンしてまだ9ヵ月程ですが、地域住民の本校への関心はとても高く、生徒と一緒に運動をしたり、カフェに足を運んでくださったりと、積極的に関わってくださる方がたくさんいらっしゃいます。カフェの来店者アンケートでは、「きびきびした動きがよい」とか、「来る度に表情がやわらかくなっている」などのご評価のほか、接客へのアドバイスもいただき、生徒の励みになっています。カフェの設置には衛生基準面や価格協議など、超えなければならないハードルも多いですが、地域の方に学校へ足を運んでいただくには絶好の施設です。今後は、木材加工室を利用して木工教室を開催するなど、地域の方へ生涯学習の場を提供しながら、交流の幅を広げていくことを検討中です。将来的にはギャラリー棟全体にカフェスペースを広げるなど、訪問者を増やしていきたいと思っています。

検討委員会から

知的障害のある高等部生徒の就労支援を目標として、充実した職業教育の環境が整えられており、そのモデル的な学校であると言える。特に、職業実習に使用するカフェ施設を、外部からのアクセスが良い位置に設置し、専用玄関を設けるなど、地域住民との交流を視野に入れた施設整備は参考となる。卒業後、地域社会で生きる生徒にとって、このような形で地域住民と相互理解を深めることは重要である。

視覚障害
に対応した施設聴覚障害
に対応した施設知的障害
に対応した施設肢体不自由
に対応した施設病弱
に対応した施設